まちの話題
Matsuura City Topics

鬼は外！福は内！

園児たちが節分の豆まき

1月末から2月初めにかけて市内の保育園や幼稚園などで節分の豆まきが行われました。

福島町のひかりヶ丘保育園（本庄圭子園長）では、3～6歳までの園児39人が2月1日に福島診療所と福島保健センターを訪問し、手づくりの衣装やお面を身に着けダンスの披露や肩もみをして交流した後、施設を利用しているお年寄りと一緒に豆まきを楽しみました。

豆まきが終わると園児たちは、「おじいちゃん、おばあちゃん、いつまでもお元気でいてください」と声を合わせてあいさつしました。

税について学ぶ

平戸法人会租税教室

社団法人平戸法人会による租税教室が平戸税務署との共催により市内4つの小学校で開催されました。

租税教室は、平戸法人会の会員が講師となり、子どもたちに税について理解してもらおうと毎年開催されています。

1月23日には調川小学校の6年生を対象に開催。税の種類などを説明した後、税がなくなった世界を仮定したアニメを上映し、税の必要性や納税の大切さを伝えました。

吹奏楽の技術を磨く

松浦音楽コンクール

松浦音楽連盟（浦順平理事長）が主催する第3回まつうら音楽コンクールが2月3日、文化会館で開催されました。

大会は、小学校・中学校・高校の部門ごとにソロとアンサンブルの部で演奏が行われ、市内外から約100人の児童生徒が参加しました。

客席から保護者や友人、先生などが見守る中、参加者たちは緊張した様子ながらも日ごろの練習の成果を披露しました。上位の結果は次の通りです（敬称略）。

【最優秀グランプリ】

○中学校ソロの部　近藤　麻貴（佐世保北中）

○中学校アンサンブルの部　鳴北中学校（時津町）管打6重奏

オーストラリアの文化に触れる

オーストラリア・デー

オーストラリア・マッカイ市と姉妹都市関係にある本市の国際教育活動の一環としてオーストラリア・デー（オーストラリアの建国記念日）に合わせた記念イベントが1月26日、文化会館で開催されました。

会場には、松浦市国際親善協会の会員など約100人が集まり、スカイプ（インターネット電話サービス）を利用したテレビ電話でマッカイ市の皆さんとの交流を楽しみました。

このほかにもオーストラリアの軽食の試食や写真・生活雑貨の展示、方言などのコーナーがあり、来場者たちはそれぞれにオーストラリアの文化を楽しみました。

見えない災害から身を守る

長崎県原子力防災訓練

長崎県原子力防災訓練が2月2日、本市を含む県北部地域を中心に実施されました。

この訓練は九州電力玄海原子力発電所の事故を想定し、災害対策基本法や原子力災害対策特別措置法、地域防災計画などに基づき防災関係機関相互の協力体制の強化と地域住民の原子力防災に対する理解を図ることを目的に毎年実施されています。

東日本大震災での福島第一原子力発電所事故を踏まえ、国は防護対策を迅速に実施するための整備があらかじめ必要な区域(ＵＰＺ)として原子力発電所から半径5㌔～30㌔の範囲を設定しました。このことを受け、県と市では地域防災計画の見直しを行い、さらに市では原子力防災避難行動計画を策定し、緊急時の対応に備えています。

今回の訓練では、県および関係市町と防災関係機関から約1,500人が参加し、情報伝達訓練や災害対策本部の設置運営訓練、緊急被ばく医療訓練、住民の避難誘導訓練などが行われました。

本市からは市民や職員など約390人が参加。避難誘導訓練では、東彼杵町、川棚町、波佐見町に設置された避難所への住民搬送が行われ、参加者たちは職員の誘導に従い、緊張した面持ちで船やバスなどに乗り込んでいました。

寝転がって見よう！

インターナショナルムービー＆ミュージックナイト

インターナショナルムービー＆ミュージックナイトを2月9日、文化会館で開催しました。

この日は海外映画の上映と、ＡＬＴのハナ先生によるミニコンサートがありました。

会場には家族連れや友達同士での参加者が多く訪れ、床に敷かれた毛布の上に寝転がったり座ったりして、リラックスした様子で楽しんでいました。

すばらしい表現力

長崎県小・中学校児童生徒美術作品展「子ども県展」巡回展

「子ども県展」巡回展が２月８日から11日まで文化会館で開催されました。

「子ども県展」とは、県内の小・中学校児童生徒が日ごろの図工・美術の学習活動で制作した作品を各学校が応募し、審査会を通して選出された作品を展示する県下最大の図工・美術作品展です。

本年度は約７万点の応募があり、その中から選ばれた優秀作品の展覧会が県内５カ所で開催されています。

造形教育研究会賞を受賞した吉田大地(だいち)君（福島中３年）の作品をはじめ、市内小中学生の作品も多数展示され、会場を訪れた人たちは、作品一点一点をじっくりと眺め、子どもたちの感性に感嘆していました。